

Q9 学習のルール理解・準備や片付けに関して

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

A君のクラスでは、「学習中、机の上には鉛筆2本、消しゴム、下敷き、教科書、ノート以外は出さない」というようなルールや、「黙って手を挙げる」といったルールがあります。しかし、自閉症のA君は、机の上に必要な物以外を出してしまいます。また、必ず出さなければならない物があるとき、それがないと大騒ぎすることがあります。

学習に必要な物は、その時間の内容によって異なります。また、学習上のルールの多くは、「何々しましょう」というように言葉での指示によって示されることが多いため、自閉症の子どもはなかなか実行できないことがあります。また、特定の物がないと落ち着かなかったり騒いだりするというのは、自閉症特有のこだわりからきています。私たちには些細なことでも、その子どもにとってはとても大切なことなのです。

また自閉症の子どもの一部に見られるのですが、片付けが下手で、道具箱の中がごちゃごちゃしていることがあります。何度「片付けなさい」と指示しても、うまく片付けることができません。具体的にどのように物をしまえばいいのか、自分で計画を立てて実行するのが苦手だったり、いろいろな判断を同時にしていく力が弱いからということも考えられます。

〈このような場合の支援 1〉

小学3年生の知的障害のある自閉症の男児。時間ごとに学習の準備物が変わるため、とまどってしまいます。また、本人が好きな物を出さないと大騒ぎをします。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 可能なら、準備物を写真や絵、文字などを使って目に見える方法で指示する。黒板に準備する物を書くだけでも効果がある。
- ② 「鉛筆1本、消しゴム1個」とリズムカルな掛け声にして復唱することで、効果的な場合もある。
- ③ 特定の物を出さないと気が済まない場合などは、「この時間は、この筆箱の中に入れるよ」等と言って、本人の知っている前でしまい、その時間が終わったら出して見せる。
- ④ こだわりを無理に直そうとするよりも、そのこだわりを上手に利用する方法を考える。
- ⑤ 整理が苦手な場合は、本人の分かる方法で、何をどこへどのように置くか具体的に教える必要がある。
1年生が使う道具箱のように、しまう物の形が書いてある箱を準備し、その形のところに物を合わせて収納する方法も有効。

〈このような場合の支援 2〉

小学1年生の高機能自閉症の男児。自分が忘れた物を無言で隣の子から借りたり、忘れ物に気付いてもどのような対処をしていいのかわからずに、かんしゃくを起こすこともあります。

- ⑥ 忘れ物をしないための方法と、忘れ物をした場合の対応方法について、日頃から本人が理解できる方法で指導する。
- ⑦ 忘れ物をしたことで不安になっていることも想定されるので、注意するよりはその不安を取り除く方法を（例えば、落ち着いて話を聞いてやる等）見つけておく。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子